

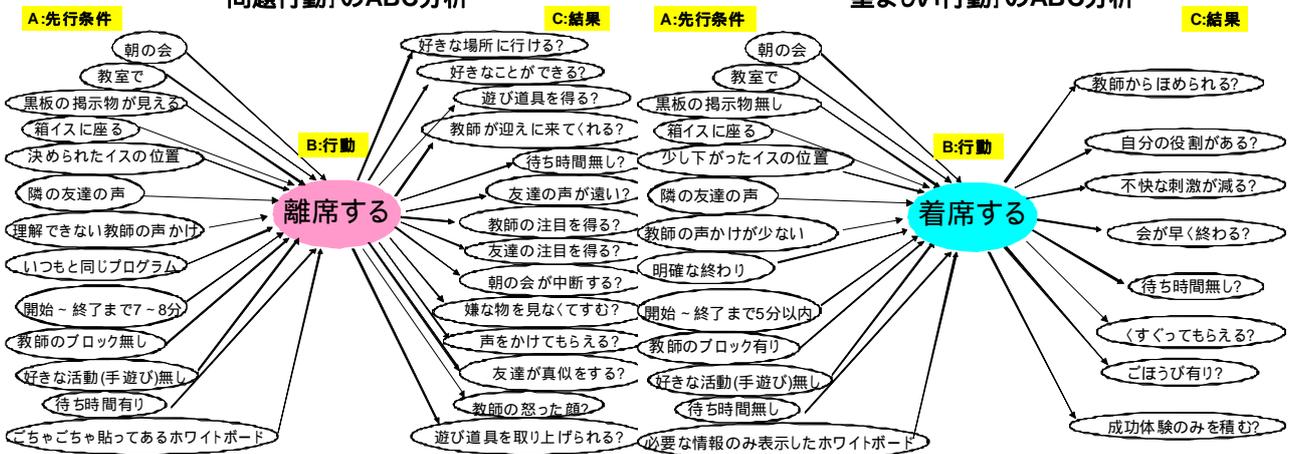
手をつなごう2008 コーディネーター講座3開催



今回も引き続き奥田健次先生（桜花学園大学准教授）にお出でいただきました。最初に前回の事例「A 君が朝の会に参加できるようになるための取組」のその後について報告をしました。問題行動のABC分析、望ましい行動のABC分析をタコ足ダイアグラムを使ってやり直し、考えられる原因に対応した解決策を考えて指導（介入）してきました。

「問題行動」のABC分析

「望ましい行動」のABC分析



その結果、問題行動は減少してきており、次回に向けては次の標的行動として「更衣」を取り上げることにしました。奥田健次先生からは応用行動分析では、記録をとり分析を行っていくことの大切さはもちろんのこと、指導後の状態が本当に指導（介入）による結果なのかどうかを知るために、条件を一定にし外的な要因をできるだけ排除したうえで、ベースライン（指導前の状態）の傾向を読み取り、介入のタイミングを考えることが重要であることや、教育現場では特に倫理的側面に配慮しなければならないというような専門的なお話もうかがうことができ、大変勉強になりました。

アンケートより

「見守ればできるようになる」ことは決してないと思い続け介入をしています。

子供たちの抵抗にあうこともあります。先のことを思い浮かべながら続けることの大切さを今日、改めて思いました。「切羽詰まった状態を作る」という言葉が心に残りました。

楽しく切羽詰まった状態を作っていきたいと思っています。（小学校）

事例研究の方法を他のことを例にグラフ化して話して下さったのでとてもわかりやすかったです。（保育園）

最後に紹介して下さったタイマーは視覚のタイマーは見たことがあります。曲を使用するアイデアには驚きました。工夫して作ってみようと思います。（保育園）

通常学級での支援は的をしぼらなければなりませんので、連日あの手この手を使ってがんばっています。スモールステップを心がけ、4月当初よりできることが増え友達にも認めてもらえ自信をもてる子供が学級内に増えてきました。たこ足ダイアグラムがよいヒントになりそうです。明日からもまたがんばろうと思える研修でありがたかったです。（小学校）

